

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) 定住性 | (13) 平和資料館 |
| (2) 区政 | (14) 多文化共生 |
| (3) 職員応対 | (15) 文化活動 |
| (4) ふるさと納税 | (16) スポーツ |
| (5) 福祉と医療 | (17) たばこマナー |
| (6) 悩みや不安の相談先 | (18) 農業 |
| (7) 障害者を支える取組み | (19) まちなか観光 |
| (8) 子育て・子どもを取り巻く環境 | (20) 日常の買い物 |
| (9) 地域コミュニティ | (21) プレミアム付区内共通商品券 |
| (10) 災害時の備え | (22) 商店街 |
| (11) 男女共同参画の推進 | (23) 資源・ごみの収集カレンダー |
| (12) 犯罪被害者支援 | (24) 再生可能エネルギー電力 |
| | (25) 広報紙 |

3. 調査設計

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 4,000人（内訳／日本国籍3,905人、外国籍95人） |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| (5) 調査期間 | 令和2年5月19日～6月4日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社アダムスコミュニケーション |

4. 回収結果

- | | |
|-----------|------------------------------|
| (1) 有効回収数 | 2,371人（内訳／日本国籍2,332人、外国籍39人） |
| (2) 有効回収率 | 59.3% |

5. 標本設計

- | | |
|-----------|------------------|
| (1) 母集団 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 4,000人 |
| (3) 調査地点数 | 200地点 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の 10 地域に分類しそれぞれを層として計 10 層とした。



地域別町丁名一覽表

地域	町丁目
世田谷東部	池尻 1～4丁目
	下馬 1～6丁目
	三宿 1～2丁目
	太子堂 1～5丁目
	三軒茶屋 1～2丁目
	野沢 1～4丁目
	若林 1～5丁目
	上馬 1～5丁目
	駒沢 1～2丁目
世田谷西部	世田谷 1～4丁目
	弦巻 1～5丁目
	宮坂 1～3丁目
	桜 1～3丁目
	経堂 1～5丁目
	桜丘 1～5丁目
北沢東部	北沢 1～5丁目
	代沢 1～5丁目
	大原 1～2丁目
	羽根木 1～2丁目
	代田 1～6丁目
北沢西部	松原 1～6丁目
	梅丘 1～3丁目
	豪徳寺 1～2丁目
	赤堤 1～5丁目
	桜上水 1～5丁目
玉川北部	駒沢公園
	駒沢 3～5丁目
	新町 1～3丁目
	深沢 1～8丁目
	桜新町 1～2丁目
	用賀 1～4丁目
	上用賀 1～6丁目
	玉川台 1～2丁目

地域	町丁目
玉川南部	奥沢 1～8丁目
	東玉川 1～2丁目
	玉川田園調布 1～2丁目
	等々力 1～8丁目
	尾山台 1～3丁目
	玉堤 1～2丁目
玉川西部	中町 1～5丁目
	野毛 1～3丁目
	瀬田 1～5丁目
	上野毛 1～4丁目
砧北部	玉川 1～4丁目
	船橋 1～7丁目
	千歳台 1～6丁目
	祖師谷 1～6丁目
	砧 1～8丁目
砧南部	成城 1～9丁目
	大蔵 1～6丁目
	砧公園
	岡本 1～3丁目
	鎌田 1～4丁目
	喜多見 1～9丁目
烏山	宇奈根 1～3丁目
	八幡山 1～3丁目
	南烏山 1～6丁目
	粕谷 1～4丁目
	北烏山 1～9丁目
	給田 1～5丁目
	上祖師谷 1～7丁目
上北沢 1～5丁目	

【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和2年4月1日現在）により、4,000の標本数を配分した。

【抽 出】

- ① 調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が20になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。
- ② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

- ③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目で指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数20を系統的に抽出した。
- ④ 以上の結果、各地域（層）別の標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域		標本数	調査地点数	18歳以上の人口数 (母集団数)
世田谷	東 部	660	33	131,088
	西 部	460	23	90,416
北 沢	東 部	340	17	67,102
	西 部	360	18	70,181
玉 川	北 部	360	18	72,559
	南 部	340	17	68,627
	西 部	260	13	51,117
砧	北 部	500	25	96,914
	南 部	200	10	40,246
烏 山		520	26	104,314
計		4,000	200	792,564

(人口は令和2年4月1日現在)

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。

例：図3-1-1



- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
(3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が100.0%を超えることがある。
(4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
(5) 基数が30に満たないデータについては参考値とする。

7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$\text{(標本誤差)} \quad b = 2\sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団(世田谷区全体) n=比率算出の基礎(サンプル数) p=回答比率

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表

基数(n)		回答比率(p)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
総数		2,371	± 1.7%	± 2.3%	± 2.7%	± 2.8%	± 2.9%	
地域	世田谷	東部	385	± 4.3%	± 5.8%	± 6.6%	± 7.1%	± 7.2%
		西部	268	± 5.2%	± 6.9%	± 7.9%	± 8.5%	± 8.6%
	北沢	東部	182	± 6.3%	± 8.4%	± 9.6%	± 10.3%	± 10.5%
		西部	203	± 6.0%	± 7.9%	± 9.1%	± 9.7%	± 9.9%
	玉川	北部	210	± 5.9%	± 7.8%	± 8.9%	± 9.6%	± 9.8%
		南部	216	± 5.8%	± 7.7%	± 8.8%	± 9.4%	± 9.6%
		西部	163	± 6.6%	± 8.9%	± 10.2%	± 10.9%	± 11.1%
	砧	北部	315	± 4.8%	± 6.4%	± 7.3%	± 7.8%	± 8.0%
		南部	116	± 7.9%	± 10.5%	± 12.0%	± 12.9%	± 13.1%
	烏山		310	± 4.8%	± 6.4%	± 7.4%	± 7.9%	± 8.0%
性別	男性	917	± 2.8%	± 3.7%	± 4.3%	± 4.6%	± 4.7%	
	女性	1,411	± 2.3%	± 3.0%	± 3.5%	± 3.7%	± 3.8%	
年代	18～19歳	35	± 14.3%	± 19.1%	± 21.9%	± 23.4%	± 23.9%	
	20～29歳	219	± 5.7%	± 7.6%	± 8.8%	± 9.4%	± 9.6%	
	30～39歳	302	± 4.9%	± 6.5%	± 7.5%	± 8.0%	± 8.1%	
	40～49歳	472	± 3.9%	± 5.2%	± 6.0%	± 6.4%	± 6.5%	
	50～59歳	442	± 4.0%	± 5.4%	± 6.2%	± 6.6%	± 6.7%	
	60～69歳	337	± 4.6%	± 6.2%	± 7.1%	± 7.5%	± 7.7%	
	70～79歳	321	± 4.7%	± 6.3%	± 7.2%	± 7.7%	± 7.9%	
	80歳以上	213	± 5.8%	± 7.8%	± 8.9%	± 9.5%	± 9.7%	

基数(n)		回答比率(p)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500 の場合		(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000 の場合		(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500 の場合		(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.7%
n = 1,000 の場合		(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800 の場合		(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600 の場合		(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400 の場合		(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200 の場合		(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100 の場合		(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

(注) この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が2,371人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.8%である。」